

# 経営学部

自己点検評価書（経営学部 2016 年実施）

平成 29 年 2 月 28 日 最終報告

「学習成果の可視化」に向けた取り組み

## （1）現状の説明

2016 年 11 月初めにディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの改訂作業の作業部会中間案を取りまとめ、同年末までに 3 ポリシーの改訂作業を終えた。従来のラーニングアウトカムを基本とするが、提唱されていえる新しい学力観を踏まえたものにした。これをもとに、各科目のカリキュラム・チェックリストの作成を行い、FD 定例会などを経てチェック表を完成させた。（添付資料 1）最も関連のあるものと関連があるもの 2 つまでをチェックしたところ、1.2 年及び、3.4 年を通じほぼむらなく分布していることが分かった。これをもとに各科目で到達目標の測定につなげ、シラバスなどでも明示していくことになっている。

経営学部における本格的展開 2 年目となる「大学教育再生加速プログラム」(AP)により、経営学部のアクティブラーニングのさらなる展開と、その学修成果の可視化に向けて学部をあげて取り組んできた。今までの成果は、河合塾主催の FD セミナーにて、中村みゆき副学部長が報告し、その内容が「大学のアクティブラーニング—導入からカリキュラムマネジメントへ」（2016 年 8 月、河合塾編著、東進出版）3 つ大学の中の一事例としてまとめられた。

また、今年度河合塾はグローバル社会に対応した大学教育に焦点を当て、今回もまた経営学部が取材対象になり、2017 年 3 月 10 日（金）開催の「グローバル社会に対応した大学教育」2016 年度調査報告会で経営学部の事例が報告書にまとめられ口頭発表される予定になっている。ここでも学習成果の可視化が大きな課題になっている。

今年度の学修成果の可視化に向けて、アクティブラーニングによる、種々の授業でのルーブリックによるジェネリックスキルの評価（自己評価を含む）を今年度も続けた。AP 事業の柱である初年度必修演習（経営基礎演習）、2 年次必修演習（人間主義経営演習）に加え、3・4 年次演習でのルーブリック評価の実施を行い、各年次におけるジェネリックスキルの向上がどれだけあるかの測定のためのデータを収集した。今年度は、授業始め、中間振り返り、授業終わりに実施した。中間振り返りは初めての実施である。

また、今年度はキャリアセンターからの依頼もあり、4 年次における就業力テストも経営学部の各専門演習で行い、定員数 250 名のところ、受験者数は 144 名にのぼった。全学部でトップの受験率であった。1 年次の就業力テストとの比較により 4 年間の学習でどのように就業力が伸びたか測定できることになる。これもデータのとりまとめを待っている段階であり、今後の活用につなげていきたい。

今年度の学習成果の可視化につながる具体的な学部内の主たる活動は以下の通りである。

### 1) 3 ポリシーの改定とラーニングアウトカムズのカリキュラムチェックの実施

12 月 1 月の FD 定例会を中心に、全教員を対象にこの作業を行った。

## 2) ルーブリックの作成と実施による学修自己管理育成と学修成果把握

### アセスメント科目におけるアセスメントの実施

1年次のマイルストーン、2年次のタッチストーンにおける自己評価ルーブリック作成と授業内での実施

経営基礎演習（1年）と人間主義経営演習(2年)で各3回実施。

学び始め、中間、最後で振り返りシートを配布、記入。

### 3・4年次のキャップストーンのアセスメント科目のアセスメント実施

- ①キャップストーンのアセスメントを検討の結果3年生4年生のゼミで実施。
- ②3年次4年次キャップストーンにおけるゼミ(演習ⅡⅣ)におけるルーブリック自己評価
- ③卒業論文の提出とその評価基準導入による査定（今後導入予定）
- ④ゼミにおけるアクティブラーニング関連項目の検討と評価
- ⑤専門科目群での連携評価(今後の学部FD定例会で検討)

## 3) 学習成果可視化に向けての教員研修・同僚会議及びSAピアサポート研修の実施（基礎演習）

今年度も、教授会の折にFD定例会を設けて毎回実施した。（以下の通り）

毎月1回、教授会とあわせFD定例会実施。

第1回 4月13日教授会前 京都FDフォーラム参加報告 安田准教授

第2回 5月18日教授会前 新入生アンケートとGPA調査結果について  
山中教授

第3回 6月15日教授会前 「経営基礎演習自己評価結果」山中教授

第4回 7月6日教授会前 経営学部の就職活動状況 キャリアセンター

7月28日 試験期間中 経営基礎演習の質問会議（4名）

9月9日 人間主義経営演習の質問会議（4名）

第5回 9月7日教授会前 「3ポリシーの策定について」 西浦教務部長

第6回 10月12日教授会前 「創価経営論集」の校正の研修 山中教授

第7回 11月25日 教授会前 「SGUにおける留学生の受け入れと今後の方向性、経営学部に対しての期待」 小山内国際部長

第8回 12月7日 教授会前 「カリキュラム・チェックリストについて」 栗山学部長

第9回 1月11日 教授会前 DPと授業をつなぐ学習課題 関田教授

第10回 2月10日 教授会前 「経営学部新カリキュラムの方向性」 大場准教授

第11回 2月16日 教授会前 「外国人学生入学試験」について 国際部 川上副部長

3月 京都FDフォーラムへの参加（学部FD予算） 安田准教授、マルチュケ講師派遣

この他、他の学部教員が参加した同僚会議を実施し、初年度と次年度のアクティブラーニングとルーブリック自己評価の振り返りを行った。

経営基礎演習(7月29日)

人間主義経営演習(9月24日)

また、学生サポートSAの研修も行った。3月24日(木)・25日(金)両日にわたってSA研修の実施(プロジェクアドベンチャー研修も含む)「コーチング」スキルと「ファシリテーション」スキルについて、時間管理、ストレスマネジメントにつき、学部15名のSAが研修。(高尾ワクワクビレッジと大学キャンパスにて)、夏の振り返り研修(9月9日)

4) その他の科目の学習成果の可視化の試み

後述するとおり、他の授業については、ほとんど後期に展開中であり、集計作業を経て、その成果の点検・評価は今後まとまる予定である。下記にあるように、現在、集計結果が終了している科目のみ今年度の点検・評価として取り上げたい。

昨年の自己点検では、多くの科目で可視化がなされ、それぞれ学習成果をあげていることが確認されている。

(2) 点検・評価

◎経営学部ラーニング・アウトカムズ（学修成果）と専門科目の関連（添付資料1）

1) 効果が上がっている事項

経営学部のラーニングアウトカムズは、下記のように5つあり、さらに12の細目に分かれている。非常勤講師の担当科目を含む経営学部の専門科目の全科目において、これらの12のラーニングアウトカムの細目のうち、最も関連するものを一つ◎をつけ、関連するものを2つマークをつけるという形で、カリキュラムチェックを行った。また、それぞれの科目で密接に関連する科目や前後に履修して欲しい科目の希望もあわせて把握した。（添付資料1を参照）

表1：経営学部の5つのラーニングアウトカムズと12の細目

<u>ラーニング・アウトカムズ</u> <u>（学位授与方針に準拠）</u>	<u>ラーニング・アウトカムズ（細目）</u>
1 現代経営に必要な基礎的知識を有している。	①現代経営に必要な学問分野の基礎を知っている。
	②企業の経営の仕組みを理解している。
	③経営の基礎的な知識を活用できる。
2 基礎的なビジネス英語を社会で活用することができる。	④ビジネス英語を活用するための基礎的な知識を持っている。
	⑤英語で実践的なビジネス・コミュニケーションをとることができる。
3 社会や組織において何が問題になっているかに関心をもち、自らもそれを発見することができる。	⑥社会の中から経営分野に関する問題・課題を発見できる。
	⑦発見した問題・課題を他者に適切に伝えることができる。
	⑧企業の社会的責任を理解できる。
4 問題解決に必要な情報を自ら収集し、分析し、論理的に探究し、考えることができる。	⑨ICTなどを活用してデータを収集・分析し、その結果を理解できる。
	⑩チームで能動的に活動し、ディスカッションできる。
	⑪多面的・論理的に思考し、それを表現できる。
5 人間主義経営の理念を理解している。	⑫人間主義経営について理解している。

点検・評価については以下の通り。

表2：経営学部のラーニングアウトカムと全専門科目の関連チェック集計

	現代の経営基礎知識			ビジネス英語		課題発見			問題解決			人間主義経営
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
1・2年次												
◎の数	9	3	5	3	3	3	1	4	6	1	1	4
○の数	8	10	12	6	6	9	4	4	0	12	13	3
計	17	13	17	9	9	12	5	8	6	13	14	7
3・4年次												
◎の数	0	4	4	0	0	17	0	3	5	0	4	0
○の数	7	7	15	4	2	9	9	5	2	2	14	1
計	7	11	19	4	2	26	9	8	7	2	18	1
全学年												
◎の数	9	7	9	3	3	20	1	7	11	1	5	4
○の数	15	17	27	10	8	18	13	9	2	14	27	4
計	24	24	36	13	11	38	14	16	13	15	32	8
計	現代の経営基礎知識 8 4			ビジネス英語 2 4		課題発見 6 8			問題解決 6 0			人間主義経営 8

- 12のラーニングアウトカムズは、4年間の専門科目を通じてバランスよく組み込まれている。
- 3・4年次の専門演習（ゼミ）が対象になっていないので3・4年次の「チームで能動的に活動し、ディスカッションできる」が0になっているが、この項目はゼミで学習が期待できる。
- ビジネス英語は1・2年次に◎が集中しているが、今後 English Track が始まると3・4年も増えることが予想される。
- 「人間主義経営を理解する」は3・4年専門科目で少なくなるが、1・2年の科目を基礎として、どの科目も人間主義経営の視点が反映されているものと思われる。

## 2) 改善すべき事項

新カリキュラムの編成と各科目における到達目標の設定に、今回のカリキュラムにおけるチェックを反映していかなければならない。今回の資料をさらに詳細に分析し、学部教務委員会や、関連科目担当者会などでバランスがよく、ラーニングアウトカムズが設定されるようにしなければならない。科目間連携を深め、ここの教員の問題意識をいかに連带的に学生の学修成果を促進してゆくという問題意識をFDなどを通して強化して行きたい。

例えば、ラーニングアウトカムの中で、「人間主義経営を理解する」は3・4年専門科目で少なくなるが、果たして3・4年の専門科目につながってゆくのか定かでないので、この点を点検して改善してゆく必要はあろう。

## ◎3つのゲートにおけるルーブリック自己評価（添付資料2）

### 1) 効果が上がっている事項

経営学部では、AP事業の一環として、マイルストーン（1年次：経営基礎演習で実施）、タッチストーン（2年次：人間主義経営演習で実施）、キャップストーン（3,4年次演習で実施）で実施している。経営学部では、特に学部独自の評価項目を設け、学びははじめから学び終わりまでの変化を見る

ための工夫を行っている。このデータを学部独自で分析して、点検・評価に役立てているところである。

本年度の測定における効果として顕著に現れたのが、2年次に行うタッチストーンである「人間主義経営演習」の学習効果の測定である。

今年度の分析結果の詳細は、添付資料2を参照されたいが、他の2ゲート、すなわちマイルストーン(1年次:経営基礎演習で実施)やキャップストーン(3,4年次演習で実施)では、「学び始め」から「学び終わり」まで何らの有意差も認められない結果(2015年度結果)となったが、今回の分析結果では、タッチストーンにあたる人間主義経営演習において、有意水準0.01で有意差が認められないのは、「課題共有/対立調整」の「学び始め」と「中間振り返り」の関係のみである(有意水準0.05では有意である)。それ以外は、経営課題発見力を筆頭に、すべてにおいて有意水準0.01以下で有意差が認められる。すなわち、計画性、情報収集力、メタ認知/自己調整力、建設的他者評価(對他者)、経営課題発見力である。

他の2ゲート、すなわちマイルストーン(1年次:経営基礎演習で実施)やキャップストーン(3,4年次演習で実施)では、「学び始め」から「学び終わり」まで何らの有意差も認められない結果(2015年度結果)とは、大きく異なる。

この授業では、第1回と中間の第8回の前半で既に学習者は、これら6項目の力を獲得したと認識している。第8回から学び終わりに至る後半部分のグループ学習により、さらに獲得した力が増強したと認識している。

特に、力が最も良く伸びているのは、「経営課題発見力」であり「情報収集力」がそれに続いている。授業目的が達成されたといつて良い。

## 2) 改善すべき事項

全体としての成長については、箱ひげ図で表わされた回答の比較で推測できるものと同様であるが、二つの分布とも負の部分が存在する。つまり、学生によっては「学び始め」より「学び終わり」の方が力の獲得について認識が下がっているということである。この原因についてはルーブリックのデータ分析だけでは特定することができない。例えば、ポスタープレゼンテーションで思ったような成果を得ることができなかったなどの原因は考えられる。プレゼンテーションの評価の意味などにつき丁寧な説明をして負部分を少なくすることが必要であろう。

## ◎人間主義経営とCSRにおけるアクティブラーニングの導入と学修成果の測定(添付資料3)

### 1) 効果が上がっている事項

以下のアンケート結果にあるように、関心度、理解度、説明力、問題解決力などの全ての観点で、アクティブラーニング学修の導入によりポイントを上げている。この授業でのアクティブラーニング手法とは、小グループでのディスカッションを授業の最初と授業の最後に行い、各授業に関連したテーマ課題に関してグループでプレゼンテーションをすることなどを取り入れた。

人間主義経営というテーマについては、1年次より講義などで理解を深めてきたが、自律的に理解し、他者に説明でき、そして多様な状況における問題解決につなげるといった学修のためにアクティブラーニングが有効に機能していることが理解できる。

### 2) 改善すべき事項

本授業で人間主義経営に関しての関心が高まり、関連知識を他者に説明し、ある程度の問題解

決につながる学修成果があったことが分かる。しかし、前述のラーニングアウトカムズとカリキュラムチェックで明らかになったように、3・4年次の専門科目で人間主義経営の理解を明示している科目が少なかったことから、ここでの学修成果をさらに発展させる機会があるかどうかは定かでない。今後この視点から、3.4年次科目や専門演習とのつながりを点検してゆく必要がある。

## ◎テーマゼミ（税理士）における合格科目の把握（添付資料4）

### 1) 効果が上がっている事項

日商簿記などの各種検定試験合格者の把握は従前から実施しており、中級簿記（後期講義）やテーマゼミなどで、日商簿記合格者の把握、また税理士、公認会計士の関連試験などでの学習の進展を継続的に把握している。テーマゼミとは、経営学部が専門演習が必修化されたことで、国家試験志望者が通常の演習授業が国家試験受験への負担になりかねないとの理由から、専門演習の中で、会計士や税理士の国家試験合格のために学修することを目的に設けられたゼミである。これには担当教員のほか、すでに国家試験を合格した先輩がSAとしてサポートできるようにしている。

経営学部では、難関の国家試験に向けての学修成果の把握も課題としてきた。特に公認会計士試験や税理士試験は、在学中に合格するとなると確実な学修成果を積み上げていかなければならない。2009年度より経営学部では、各専門の演習ゼミのほかに、テーマゼミを公認会計士を目指す学生、税理士を目指す学生それぞれに設置してきた。税理士のテーマゼミ（前田教授担当）では、添付資料4のように、卒業生を含め合格科目を把握し、最終合格に至るまでの成果を継続的に把握して合格への道筋を学生に示している。

### 2) 改善すべき事項

経営学部の定員が減少したこともあり、公認会計士や税理士志望者が減少傾向にある。きめ細かい学修成果を把握しながら、より多くの学生が試験突破できるように、テーマゼミの広報を促進し、長期的に育成できるようにしたい。

## ◎学部英語科目における TOEIC 等スコア以外の学修成果の把握

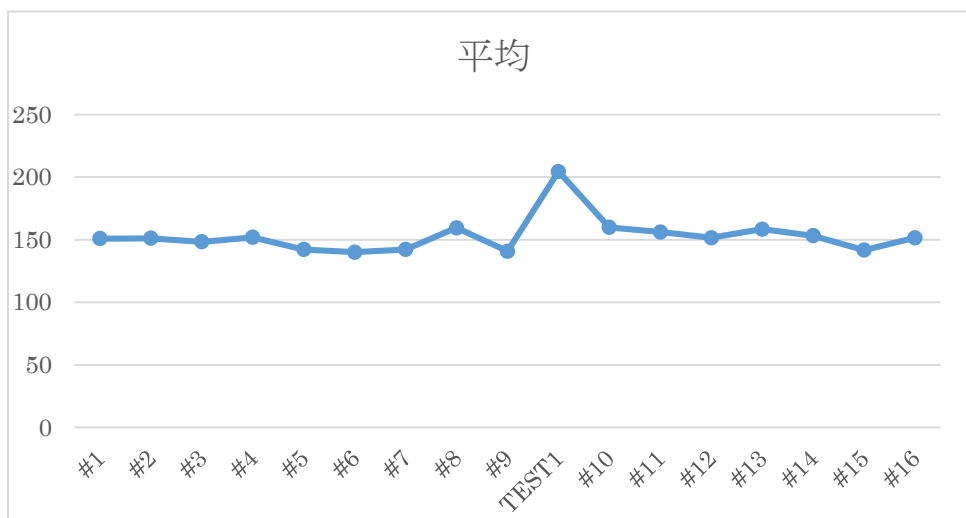
### 1) 効果が上がっている事項

新たに学部英語科目で可視化に向けた試みが開始された。これは、1年生の英語授業である Study Skills for Global Leadership (SSGB)で、学部担当教員の波多野一真講師とダニー・佐々木講師によるもので、Quick write と呼ばれる一定の時間でどれくらいの英単語を含めた文章を書けるかを統計的に把握し、その進展を見るというものである。以下が今年度のデータ例であるが、試験による影響が顕著に見られることが分かる。

### 2) 改善すべき事項

経営学部では、新カリキュラムから、卒業に必要な語学単位が英語で10単位必要になる。これを受けて、さらに長期的に英語力育成のために学修成果の把握を継続的にしてゆく必要がある。英語担当教員の充実と共に、戦略的に語学力向上スキームの改善をしてゆきたい。

図1：Quick write の平均の推移



Quickwrite の原データを次に付する。

表 4 :

Quickwrite	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	#8	#9	TEST1	#10	#11	#12	#13	#14	#15	#16
Student 1	182	90	159	124	162	143	142		167	190	145	114		133	167	130	157
Student 2	131	222	203	170	170	168	182	215	173	220	200	169	172	176	182	158	139
Student 3	63	78	72	70	71	70	85	80	70	160			72	78			86
Student 4	167	213	183	129	158	198	115	171	75	192	125	102	102	135	196	148	150
Student 5	124	84	102		103	131	102	98	103	144	85	112		133	110	108	119
Student 6	108	119	109	107	111	105	111	119	142	303	126	155	158	256	164	135	128
Student 7	186	157	176	226	167	110	162	186	173	193	191	177		165	171	159	
Student 8	102		92	74	74	90	96		90	197		91	106		104	71	84
Student 9	209	220	195	225	210	192	205	210	203	286	239	245	247	195	207	193	173
Student 10	184	214	177	209	207	209	215	220	200	299	182	218	209	189	207	214	201
Student 11	154	176	171	172	170	178	153	152	171	192	164	169	145	164	185	163	191
Student 12	109		101		120	119				202	115						161
Student 13			141	115	101	114	100		115	211		126		122	121	130	132
Student 14	106	124	121	108	118	114	101	105	108	165	108	115	111	112	107	112	112
Student 15	130	125	108	132	128	86	105	101	108	189	121	91	104	106	112	101	124
Student 16	165	171	179	166	157		162	161	167	223	179	173	203	211	199	210	207
Student 17	126	116		155		65				61				46		106	108
Student 18	244	143	194	212	138	168	188	266	154	239	205	223	209	188	95	180	
Student 19	257	204	213	206	198	209	161	147	144	250	210	206		204	209	144	187
Student 20	95	113	147	165	114	120		122	132	153	129	144	136	131	143	123	128
Student 21	130	121	126	108	154	150	128	166	158	258	148	181	187	134	152	128	130
Student 22		174	113			120	128		109	163		113		130	112		130
Student 23	197	160	181	165	155	222	203	193	195	213	206	198	217	207	168	175	226
平均	150.9	151.2	148.32	151.9	142.19	140.05	142.2	159.53	140.81	204.48	159.89	156.1	151.5	158.45	153.19	141.71	151.53
Quickwrite	#1	#2	#3	#4	#5	#6	#7	#8	#9	TEST1	#10	#11	#12	#13	#14	#15	#16
平均	150.9	151.2	148.32	151.9	142.19	140.05	142.2	159.53	140.81	204.48	159.89	156.1	151.5	158.45	153.19	141.71	151.53

◎経営情報論による IT パスポート資格への導入（非常勤講師担当、添付資料 5）

1) 効果が上がっている事項

経営学部の情報分野の有力な資格である IT パスポート取得に向けて「経営情報論」をその基礎科目と設定した。この科目は中村孝太郎非常勤講師によるものであるが、開講初年度の授業でのアンケートを基礎に学修成果を振り返り、翌年度のシラバスの改善に役立てた。中村講師からは、「経営情報論：アンケートによる次回への反映事項」と題された資料が提出され、その経緯を明らかにしている。（添付資料 5）。

2) 改善すべき事項

非常勤講師といっても学生から見れば専任教員と変わらない。学修成果の可視化にあたっては

今後はいかに非常勤講師の先生を含めて広げていけるかが課題になる。今回の中村孝太郎先生の試みを学部全体に限らず、非常勤講師の先生方にも紹介して行きたい。

### (3) 将来に向けた発展方策

#### 1) 効果が上がっている事項

2018年の新カリキュラム、そしてEnglish Trackの開始のため、ほぼその編成は固まりつつあるが、その質を高めるために、ラーニングアウトカムとの整合性をさらにはからなければならない。そのための毎月のFD定例会開催により、教員間のコミュニケーションや合意形成はかなり進んでいると思われる。

従前から行ってきたAP事業で行ったアクティブラーニングによるジェネリック・スキルの伸びの結果で、2年次で行った人間主義経営の成果が統計的に証明されたことの意味は非常に大きい。この結果につながった要因をさらに検討して他の科目にも活かしたい。

また、今回就業力テストを4年次にも実施し、かなりのデータが集まったことから、就業力の分析もあわせてできることの意味も大きい。これら为新カリキュラムの検討にも活かしたい。また、学部FD定例会を毎回の教授会に行ったことが、かなり厚みのある学部FDになっており、新任の3人の教員も積極的に参加していることは人員の充実にも大きくつながっていくであろう。

#### 2) 改善すべき事項

将来に向けて、AP事業で行った3つのゲートでの分析結果をさらに検討する。2年次の大きな成果を1年次と卒業年度にも大きな進展が得られるような仕組みを考えて行きたい。また、専門科目のラーニングアウトカムの測定と適切な達成目標の設定を含め、今後新カリキュラムを検討する中で、更なる展開をはかりたい。

そのためには、分散しているデータを総合的に収集し、分析する機能を構築しなければならない。関係部局との連携を深め、データ利用の効率化が求められる。

### (4) 根拠資料

添付資料1：2016 経営学部科目とラーニングアウトカムズ

添付資料2：経営学部基礎演習 ルーブリック調査結果2016  
及び人間主義経営演習ルーブリック評価結果2016

添付資料3：「人間主義経営とCSR」授業内アンケート結果

添付資料4：経営学部テーマゼミ生（税理士）の成績（HISTORY）

添付資料5：「経営情報論」次回への反映事項（非常勤講師による学修成果の可視化）